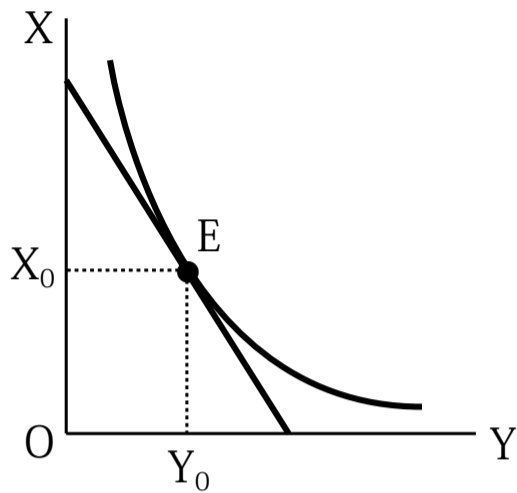


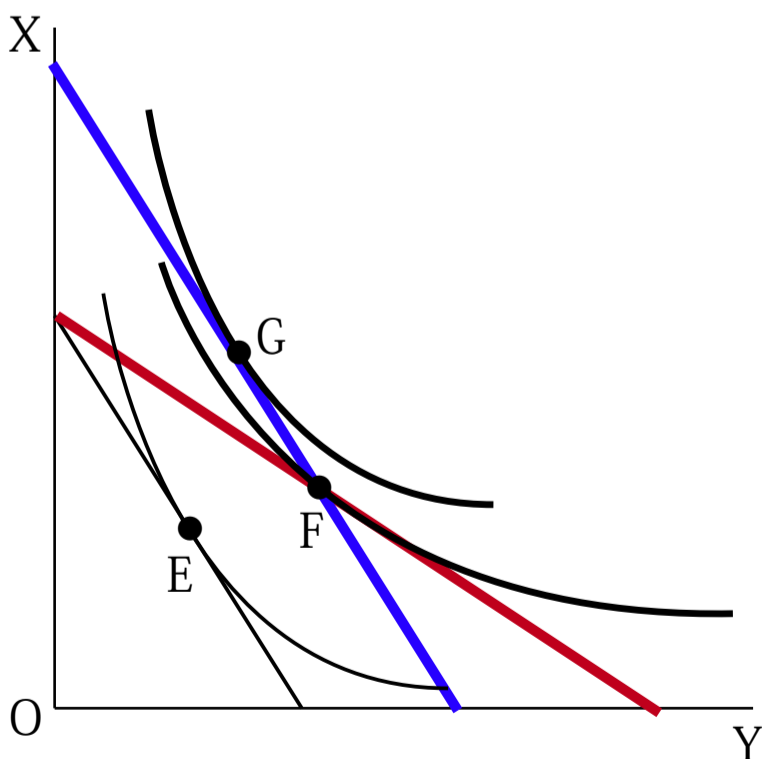
2種類 (X財、Y財) の公共サービスを提供している地方公共団体があり、予算制約線と無差別曲線が次の図のように示されています。このとき、特定補助金と一般補助金が導入された場合の効果について、A～Cにあてはまる語句の組み合わせで妥当なものを選んでください。



Y財に対して2分の1の定率補助金が付いた場合、Y財の購入量は増加し、X財の購入量は通常は増加します。そこで、この定率補助金と同一金額の一般補助金を実施した場合、特定補助金の場合と比較して、X財の購入量は□A□し、Y財の購入量は□B□します。一般補助金と特定補助金の効果を比較すると特定補助金での満足度(効用)の方が□C□。

	A	B	C
1	減少	増加	小さい
2	減少	増加	大きい
3	増加	増加	大きい
4	増加	減少	大きい
5	増加	減少	小さい

(地方上級 改題)



補助金は政府が金銭を支給するものであり、一般補助金と特定補助金に分類される。

特定補助金は、ある財に対する補助金である価格の下落と同じ効果が働く (E点→F点)、一方、**一般補助金**は所得が増大したことと同じ効果が働くことと同じ効果が働く (E点→G点)。

このことから、G点の方が効用が高く一般補助金の方が有用な補助金となることがわかる。

特定補助金によって実現した最適消費点Fと一般補助金によって実現したG点とを比較すると、一般補助金の方がX財の購入量は増加し、Y財の購入量は減少するが、原点より遠い位置に無差別曲線があるので効用水準は高くなる。これらの条件にあてはまるのは5になる。

正解は5。